

報告書

原山小学校跡地活用検討会

1回目：令和4年12月7日(水) 19:00～20:00
2回目： " 12月10日(土) 10:00～11:20
いずれも 原山公民館会議室
出席者 ①(12/7) 11名 ②(12/10) 6名
※うち原山台住民7名(延べ)

内容

1. 瀬戸市からの説明(両日とも)

- (1) 教育政策課職員から、資料「菱野団地における公立学校の適正規模・適正配置について(令和4年7月修正版)」に従い、分離型小中一貫校の実現や特別支援学級の充実などについて経過や内容等が説明された。また、令和4年6月8日に行われた地元説明会での質疑応答の内容が報告された。
- (2) 経営戦略部(経営推進課)職員から、原山小学校跡地活用に関する市の現状の考えが説明された(未定である)。また、市内「にじのおか学園」の各小中学校跡地の活用状況について報告された。

2. 質疑応答(抜粋)

<12/7分>

- ・小学校の統合は賛成である。小中一貫校と呼ぶのはなぜか(メリットは何か)。
→すでに市内の一部で学校統合による小中一貫教育を行っているため。
小中一貫教育のメリットは、シームレスな教育ができること。
- ・小学校を統合すると、児童数が多くなり転校生も増える。不都合はないか。
→不都合が生じないようにする。
- ・原山小の跡地活用で、R8・9年度は猶予期間でよいか。PFI手法の場合は、住民の意向を反映してほしい。
→原山小はR8年度に閉校する。跡地活用は民間の提案を求め、PFI手法の条件は考えていく。
- ・原山小の校舎は、廃校後も住民が利用できるのか。
→地元の要望があれば校舎の利用を考える。建物の耐震性は大丈夫。
- ・当団地では、センター地区の再生も課題である。県と市が調整して公共施設のバランスを考えてほしい。
→センタービルの施設は、県と市で調査している。現状では、課題も多いが今後も県と市が調整していく。



<12/10分>

・小学校が統合した後の児童数とクラス数はどうなるのか。

→統合した後は、1学年35人学級で3クラスを予想している。



・統合する小学校の耐用年数はどれくらいか。

→学校の耐用年数は明確な決めはないが、通常50～60年と言われている。

統合後の小学校は、長寿命化で通常以上の耐用を見込んでいる。

・小学校の統合を機に、子どもたちに地域活動を学ばせてはどうか。

→すでに各小学校では、児童対象に郷土愛の醸成を行っている。今後は小中

一貫校のメリットをいかしていきたい。

・学校と公民館や体育館などを使った社会教育活動との連携をしてほしい。

→当地区では、現在地域力向上委員会が地域の横断的な活動を行っている。

・当地区では、公民館が小さく空間が狭い。小学校の体育館を活用するなど大きな社会教育施設がほしい。

→住民にいろいろな意見があることは承知している。